

# 入中3年人権だよ

徳島市 八万中学校  
3年生 第15号  
2021年 9月21日  
編集・埴 吉成正士

9月10日(金)、タブレットを使い、オンラインで「日本の人権獲得の歴史 現代」を学習しました。とりわけ「教科書無償化運動」についての学習しました。

この間ずっと、学年全体での人権学習ができないかと思いつけてきましたが、コロナ禍でなかなか思うようにいきませんでした。それでも、これなら！との思いで、オンライン授業にチャレンジしてみました。

やってみて思ったことは、私が話していることがちゃんと伝わっているかどうかがよく分からないので、すごく不安だったということでした。リアルに目の前にみなさんがいれば、「あ、分かってないな」とか、「あ、変なこと言ったかな」と思えるので、より詳しく話したり、尋ねて言い直したりできるのですが、それが難しかったということです。話す側に、よりいっそうういねいさが求められるということです。そう思うと、テレビに出ている人たちって、本当にすごいんだなあと思いました。

さてここからは、みなさんが書いてくれた感想を紹介しながら、あの授業をふり返ってみたいと思います。

■今日の5時間目の吉成先生のオンライン授業では、教科書が無償になるまでのことやいろいろな人の意見を聞いて良かったです。当たり前にあることを当たり前と思わないようにしようと思いました。(2組)

■今日の道徳の授業ですが、考えさせられることが多くありました。まずリモート授業という特別感もあり、より真剣に取り組むことができました。内容についてですが、昔の人たちが差別という大きな問題に立ち向かったことは、やはり何度考えても素晴らしいと思います。このような勇気を持った人になりたいです。(5組)

初のオンライン授業は、案の定、画像がスムーズでなかったり、固まったり、見えなくなったりしたクラスもあったようです。音声も、聞き取りにくかったり、聞こえなかったりもしたようです。

でも、初物ということもあり、みんなよく聴いていたと、あとになって聞きました。慣れるまでは、何度も試しながら、失敗しながら、精度を上げていくしかありません。それでも、「やらないよりはマシ」という思いで、これからも折をみてチャレンジしていきたいと思います。

■人権学習を通して、私たちが今、当たり前のようにしている生活や制度を作るために、たくさんの人たちが頑張ってくれたことを感謝しなければならなかった。その人たちの頑張りをムダにしないように勉強に励みたいと思う。(2組)

■今回の人権学習で、今、私が普通に使っている教科書が無償なのは、頑張ってきた人がいるからと知って、ありがたいと思った。今は今、昔は昔と区切ってしまいがちだけど、この教科書の無償化のように、昔、頑張っ

た人がいるから、今無償化になっているので、区切らずに、この無償化が当たり前だと思わないようにするべきだと思いました。(4組)

当たりのことを当たり前と思わないこと、大事ですよ。

足をケガしたとき、普通に歩いていたときのありがたさに気づきます。風邪を引いて鼻が詰まったとき、当たり前前に呼吸できていたことのありがたさに気づきます。病気やケガで寝込んだとき、健康であったことのありがたさに気づきます。

人はなくしたときに、それまであったことのありがたさに気づくものです。でも、なくしたときでは遅いこともあります。とすれば、なくさなくても、日ごろからその存在のありがたさを思い、感謝することが大切になります。頑張ってくれた人たちに感謝すること、そして、その存在が続くよう、私たちも努力することです。私たちの後に続く子や孫のため、未来のために。そのために今、みなさんは学んでいるのです。

■部落差別というのは、昔の人の努力や頑張りがあるということがわかりました。教科書無償化運動は、部落の子どもたちのためだけではなく、孫や未来の子どもたちのためにも行われていたと知ることができました。今、こうして学校へ行って教科書を使って勉強できていることは、とても幸せなことだし、昔の人たちに感謝したいと思いました。(3組)

■最初の感想にも書いていたけど、今私たちが使っている教科書が無償化されているのも、昔の人の努力があったからこそだと思う。昔の人がそうしてくれないと、もしかしたらまだ教科書をお金を払って買わなければいけなかったかもしれないから、本当に感謝すべきだと思った。

ほかのクラスの感想で、部落差別や人権についての勉強も、受け身ではなく、主体的に取り組むべきだというのが出てきて、吉成先生も言っていたけど、大切なことだと思った。これからもこういう勉強はたくさんあると思うので、主体的に学んでいけたらいいと思う。(5組)

「たくさん」はありません。なくても自分から学んでいく、それが主体性です。

高校には、総合の時間や特別活動の時間はあっても、道徳の時間はありません。総合や特活のなかで人権について学習することもあるかもしれませんが、それも高校によって違います。ましてや中学校のように、毎週あるようなことはありません。まったくない高校すらあります。高校から先になれば、なおさらです。

つまり、みなさんは今、人生で最後の人権学習を受けているかもしれないということです。だからといって、人権について考えなくていいかということ、そうではありません。よりいっそう人権感覚が求められるよ

うになっていきます。でも、人権は時々刻々進化しています。ということは、本当に主体的に、自分から更新(アップデート)し続ける必要があるということです。昔の人の努力や頑張りに本当に感謝するなら、それをしていく必要があるということです。

■今日の人権学習を通して、私は今、教育を受けていられることに感謝しないといけないなと思いました。だから教科書を今までよりも大切に使っていこうと思いました。

また、「悪いことは悪い」と言える関係をつくり、みんなが楽しいクラスにしていきたいです。そんな関係になることは難しいけれど、勇気を持ってお互いに注意し合えるように、まずは雰囲気から高めていきたいと思いました。(1組)

■昔の人たちはこれからの未来のためを思って、たくさんのごいことをしてくれたということが分かって、これからは感謝して生活したいと思いました。そして、間違っていることは間違っていると人にちゃんと伝えるようになりたいです。(1組)

■総合の時間、勉強をしてみて、クラスだけじゃなく、みんなで意見を言い合うことで、みんながどう思っているか、どうしていきたいかが分かった。教科書をお金を払うことなく使えているのは、昔の人のおかげだと知って、よりいっそう大切に使わないいけないなと思いました。(3組)

■今、教科書が無償で配られているのは、戦後の人たちが闘ってくれたおかげだと知りました。いろんな人の意見を聞くことができて良かったです。一人ではできないことも、たくさんの人と協力すれば、大きな力になるのだと思いました。(4組)

■教科書無償化運動をしていた部落の人たちは、自分たちだけそうならいいと思っていたわけではなく、部落以外の人たちも無償化にしようとしていたと気づいたときは、とても驚きました。そしてこのことを見習い、私たちのクラスも、自分だけが良かったらいいという考えのクラスではなく、クラスのみみんなが楽しみ幸せに過ごせるようなクラスにしたいです。

授業の最後の方に、いろいろな人が発表していましたが、やはりみんな共通して「嫌なことがあればはっきり言って、みんなの安心できる居場所にしたい」と言っていました。私たちのクラスもこれを実現できたらいいなと思います。そして、受け身ではなく、主体性を持って行動したいなと思いました。(6組)

こんな形でも授業して良かったんだ、と感想を読んで、少し気持ちが軽くなりました。画面越しでも、他のクラスの雰囲気だったり、他のクラスの友達が言う意見を聴くことで、どこか気持ちがほぐれるというか、和むというか、ホッとしていたような気がします。本来ならこの時期、文化祭などの学校行事でそれがリアルに感じられ、緊張感の中でもホッとできていたものです。でもそれができなくなった今、せめてあの時間でも感じてもらえれば、それで十分です。

悪いと思ったことを「悪い」と、間違っていると思ったことを「間違っている」と言うことは、勇気がいることかもしれません。でもそれは、人間関係がまだ

十分できていない間柄だからです。もしそれができていれば、思ったことを素直に言えるのではないのでしょうか。つまり、それが言える間柄のクラスになっていくということなのです。それが、みんなにとって楽しく、幸せな、安心できるクラス(=居場所)だということです。そのためにも、「悪い」とか「間違っている」とか言う以前の問題として、みんなが意見や思いを素直に発表していけるようになることです。それが無いのに、「悪い」とか「間違っている」とか言えるはずがありません。互いにみんな違います。その違った意見や思いを出し合い、認め合ってこそ、「いいクラス」に近づけるのだと思います。

卒業まであと半年。早いものです。この調子でいけば、半年もきつと、アツという間です。その短い時間の中で、今の私たちに何ができるのか。どの一人にとっても、「ああ、いい中学時代だった」と思えるような時間を過ごすためにすべきこととは。

自分が良ければ、と思ってるうちは、何の行動も起こそうとはしません。だから何も始まりません。

今が良ければ、と思っているうちは、あとになって後悔することもあります。

後悔しないためにも、本当の意味で思い出深いクラスにするためにも、ためらうことなく、今、主体的に動くことです。そんなことを、「教科書無償化運動」は伝えてくれているのではないのでしょうか。

■今日の5時間目の授業で、私は一番に、自分の意見に素直でいることが大切だと感じました。周りの人に何を言われても自分の意思を貫いたからこそ、人権を獲得したのだと思います。また、自分だけ助かれば良いのではなく、未来のことも考えて行った活動は、自分にはなかなかできないことだなと思いました。先人の人たちが苦しい思いをしてでも掴み取ったものは、決して忘れていいものではなく、これから先にも伝えていくべきです。簡単にはできないけれど、私はそう思いました。素直さを忘れないように過ごしていきたいです。(6組)

だからこそ、堂々と胸を張って発表してほしい。そう思います。いつでも、どこでも。先人たちの思いに学ぶならば、面接でも、みなさん自身の人柄をちゃんと知ってもらうために、堂々と発表してほしい。先人の思いを受けて、面接で、中学時代に取り組んだ人権学習を堂々と、切々と発表していった中学生をたくさん見てきました。みなさんにもそんな姿を学びとってほしいと思います。

また、知ったと同時に、人は伝える責任が生じます。ただそれは、責任であって義務ではありません。責任を果たすかどうかは、それぞれに委ねられています。何もしなくても、誰に責められることもありません。あとは、あなたがどうするかです。

これから厳しい日々が待ち受けています。それも一人なら乗り越えられないかもしれません。でも、みなさんには仲間がいます。語り合う友がいます。一人きりで我慢するのではなく、みんなで我慢を迎え入れてやりましょう。避けられないものならいっそのこと、みんなで我慢を楽しんでやりましょう！

さあ、来い！ガマン！